

環境分野への質問

	意見	区の考え方
1	3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用))の推進への取組は、課題解決の方向性における5年後の(3)に分類されるのか。	ごみの削減に向けた具体的取組として、施策の方向性に含まれます。
2	芸術文化部門で目黒独自の「文化縁」について話があったが、環境分野でも3Rを推進しているならば、今後その言葉の使用を続け、今後とも推進していくという姿勢を示した方がよいのではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
3	廃棄物減量等推進等審議会に昨年まで参加したが3R、ごみの減量についての検討事項があまり反映されていないように思う。3Rについては、買い物ルールなどを明確に、もっとわかるように文章化してはどうか。区の事業についてもっとアピールするのがよいと思う。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
4	政策課題や施策の方向性の中に、2R(3R)の推進、あるいは循環型社会の実現という文言があってもよいのではないか。	循環型社会の実現に向けて、更なるごみの減量を課題に掲げ、分別の徹底と更なる資源化を解決の方向性としたものです。また、3Rは今後とも積極的に実践すべき取組ですので、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
5	課題解決の方向性の(3)に「全ての資源とごみの適正排出に向けた普及啓発」とあるが、意味が把握しにくいので具体的に説明してほしい。	ごみの分別は資源で4品目に分かれ、その他に燃やすごみ、燃やさないごみ、古紙、水銀を含む製品と分かれています。しかし、実際には、資源として分別されるべきものが燃やすごみや燃やさないごみとして出されています。こういった状況が改善できれば、ごみの総量が減少するため、そうしたことを意図して「資源とごみの適正排出」と記載しています。
6	新たな政策課題の(7)について、戸別収集という話があったがその点の詳しい説明をお聞きしたい。	説明のような趣旨であれば、「目黒区の分別に沿って」といった文言を追加し、誰がみてもわかりやすい表現としてほしい。
		近年、高齢化の進行や生活スタイルの変化等によって、かつてのような大規模集積所の維持管理が難しい状況となっており、そのため分散化が進み、小さな集積場が多くなっているというのが現状です。今後の対策としては、戸別収集等も考えられますが、その場合は収集作業の時間の増加だけでなく、収集費用も増加してしまうため、将来的な課題として記載しています。

	意見	区の考え方
7	「啓発」という言葉が多用されているが、他方では、どうしたら関心を持ってもらえるのか、といった手段を具体的に考えていく必要があるのではないか。環境問題を幅広い層に知ってもらうための情報発信が必要である。	今後、施策を展開していくに当たっては、ご意見を参考にさせていただきます。
8	具体的な施策になるが、ごみの分別をはじめとする様々なルールや関係する施策についての啓発・情報発信のあり方の工夫を考えるべきである。具体的な数値目標等を掲げて、取り組んでほしい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
9	区側として「～する必要がある、～を守る必要がある」といった表現が多いと感じる。例えば、目黒区環境基本計画の基本方針4で「健康で快適に暮らせる生活環境を確保する」とあるが、例えば「生活環境を創出する」として区民自らも取り組み、創っていくという表現にする考え方もあるのではないか。そのような視点からも文言を検討してほしい。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
10	どの立場からものを見ていくのか、視点をどこにおくのかということだが、行政、地域、家庭が一体となって作っていく場合、地域へ目を向けることは重要である。文言の書き方は重要であるため、今後取りまとめの中で工夫していく必要がある。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
11	環境分野を越えた話となってしまうが、全体的にどうしたら関心を持ってもらえるか、取組につなげていくのかということをも文言の中に組み入れてほしい。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
12	マイクロプラスチックの問題は国際的な課題であるが、「区内では絶対に使わない」という姿勢で行くのかどうか。プラスチックは使わず、紙を使用するとした場合でも、資源問題や環境問題が生じてくるので、バランスが重要ではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
13	治水、公園緑地、騒音などの問題も環境として意識しなくてはならない。羽田空港に関連して新たに発生するであろう上空騒音の問題など、かつてとは異なる避けられない環境問題に対し、どうやって目黒区の環境を守るのかという視点が必要であり、近年はその対象範囲が広がっていることに留意してほしい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

	意見	区の方考え方
14	区内を走るごみ収集車や東急バスから、もくもくと排気ガスが出ているのをよく見かけるので、改善、徹底検査をするべきではないか。	現在、区のごみ収集で使用している収集車は、区有車両・雇上車両とも国の定める最新規制に適合した低公害車(低排出ガス認定)であり、かつ都の定める排出ガス規制に適合した車両のみとなっています。また、整備状況についても日常的に点検を行っていますので、もくもくと排気ガスを出して走行することはありません。 なお、ディーゼル車の規制は東京都環境局が担当しており、東京都環境確保条例で定める粒子状物質排出基準を満たさないディーゼル車は、東京都内の走行が禁止されています。
15	ごみの分別方法の周知とカラスへの対策として黄色ネットの配布と確実な使用をアピールしなければ、「汚い目黒区」になってしまうおそれがある。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
16	環境分野の中で、「生物多様性・みどりの保全」の記述がないのはなぜか。	今回の資料作成に当たっては、専ら区の組織分掌に応じて内容をまとめているため、生物多様性やみどりの保全に関しては、9月の審議会の議題である「自然環境・景観分野」において記述されています。 中間答申等をまとめるに当たっての政策分野の切り分け方・まとめ方については、今後検討していきます。
17	5の政策課題や6の施策方向性の中で、ごみ減量や資源化の記述についてのみ「SDGsの視点」が掲げられているが、SDGsの視点はごみ減量に限らず、区の全般的な政策に取り入れるべき視点である。ここだけに特化して記述すべき視点ではないのではないか。	SDGs(持続可能な開発目標)は、国連で採択された国際社会共通の目標であり、持続可能な世界を実現するための経済・社会・環境をめぐる広範囲な取組が示されています。ご指摘のとおり、環境に分野に限らず、区の様々な施策に関連性を有する目標です。そのため、区としても世界共通の目標であるSDGsを踏まえつつ、各施策に取り組んでいく必要があると考えています。